

7章への導入

- ・一貫して増加を続けてきた人口や産業の受け皿を確保するため、新たな住宅団地や都市基盤を整備し市街地を拡大
- ・昭和46年に「札幌市長期総合計画」を策定し目指すべき都市構造を設定、さらに昭和48年から住区整備基本計画による計画的な市街地整備を推進
- ・平成12年に「第4次長期総合計画」を策定、高齢者の安心な暮らしの確保や環境負荷の低減を図るため、基本的な目標に「コンパクトな市街地」を設定し都市づくりを推進
- ・一方、今後は、人口がはじめて減少に転じることや、都市基盤の老朽化の進展により更新時期の大きな山が到来
- ・東日本大震災では、都市の防災力の重要性やエネルギー利用の見直し、老朽化した都市基盤の危険性が再認識
- ・今後の都市づくりは、先人たちが築き上げてきた都市基盤を生かしながら、今日的な課題にも対応した、持続可能な都市空間への再構築が必要

まちづくり戦略ビジョン <ビジョン編>

- 【第3章 都市像】
- ・北海道の未来を創造し、世界が憧れるまち
 - ・互いに手を携え、心豊かにつながる共生のまち

- 【第5章 ビジョンの推進】
- ・北海道と共に発展する札幌
 - (1) 北海道の資源との連携
 - (2) 北海道内の経済循環の促進
 - (3) 北海道の魅力の発信

第1節 将来(概ね20年先)を展望した課題と取り組みの方向性

現状

【都市基盤の整備状況】(資料4) ・道路の舗装率を始め、他の政令市と比較しても充実した都市基盤
 ・急速な人口・産業の集中に合わせて拡大した、十分な広さの市街化区域

課題

- ① 人口減少・超高齢社会への対応(資料5)
 - ・移動に不便を感じる高齢者が増加・外出機会の減少
 - ・空き家・空き地の増加
 - ・公共施設利用形態の変化
- ② 都市基盤の維持・充実(資料6, 7)
 - ・集中して整備した都市基盤の老朽化
 - ・防災拠点施設、ライフラインなどの耐震性
- ③ 都市活動の活性化(資料8)
 - ・都心へのアクセス性に課題
 - ・グローバル化に対応する観光資源の魅力向上が必要
 - ・札幌はものづくり産業が脆弱
- ④ より高まる環境問題への対応(資料9)
 - ・エネルギーの大消費地である札幌の責任
 - ・二酸化炭素排出量の更なる削減が必要
 - ・自然環境保全の必要性の高まり

踏まえるべき視点

- 【北海道の資源の発信・活用】
- ・道内周辺他都市の資源の活用
 - ・広域交通のネットワーク強化
 - ・札幌の高次な都市機能の活用

第2節 目指す都市空間の姿 ビジョン編で位置つけた戦略的に取り組むべき3つのテーマから目標を設定

暮らし・コミュニティ

産業・活力

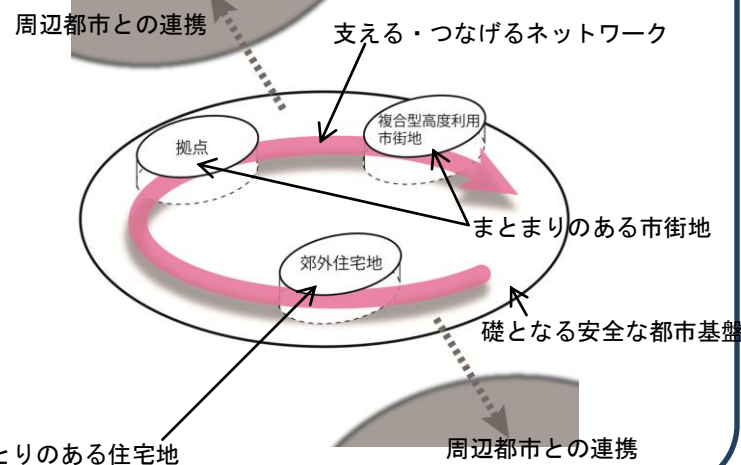
低炭素社会・エネルギー転換

(仮称)札幌型の集約連携都市

大切な機能が集約したまとまりのある市街地

札幌らしい郊外のゆとりのある住宅地

支える・つなげるネットワークと礎となる安全な都市基盤



都市づくりの目標と方向性

まとまりある市街地とゆとりある住宅地

支えるネットワーク・基盤

安全・安心で暮らしやすい都市づくり

- 【利便性が高く、多様な活動が可能な都市】
- ・都心や地下鉄駅周辺に都市機能を集約
 - ・公共交通による拠点へのアクセス確保
 - ・高齢者の生活支援機能の誘導・バリアフリー化
- 【郊外の良好な住環境が維持される都市】
- ・地域特性に応じたエリアマネジメント

- 【適切に維持・保全される都市】
- ・1万戸保全事業の選択と集中、効率化
 - ・施設の複合化、統廃合による適正配置
- 【災害に強い都市】
- ・耐震化の促進
 - ・防災拠点施設の重点的配置

魅力と活力ある都市づくり

- 【様々な活動を活性化する都市】
- ・都心への機能集積や骨格構造(駅前通など)、主要ゾーンの機能強化
 - ・産業や研究開発機能の集積、観光拠点の育成

- 【連携を高める都市】
- ・都心へのアクセス機能の強化
 - ・広域交通ネットワークの強化
 - ・道央圏の産業基盤の強化
- 【みどり豊かな都市】
- ・既成市街地への重点的なみどりの創出
 - ・みどりのネットワークの充実
- 【創造性豊かな都市】
- ・創造的な活動を支える機能や場の創出

エネルギー効率の高い低炭素型の都市づくり

- 【エネルギー消費を抑制した都市】
- ・公共交通を移動手段の軸とする、エネルギー消費を抑えた都市構造を構築
- 【エネルギー利用効率の高い都市】
- ・都心・拠点でのエネルギーネットワークの展開

- 【エネルギー利用効率の高い都市】
- ・再生可能エネルギーの拡大、スマートグリッドの導入